

第33回

うつのみやこども賞だより

平成28年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『流れ星キャンプ』

嘉成晴香／著（あかね書房）

～読んだ本の感想より～



- 明里とけいたとかっちゃんが仲良くなれてよかった。アメリカに行った後がきになる。
- あかりちゃんの、友達の作り方がおもしろかった。
- 二人が友達になれてよかったです。
- いろいろな視点から書かれていたので、内容が、くわしく分かりました。
- 明里の「わたし、かわいそうじゃない」という言葉や、圭太のお母さんの言葉が、とても心に残った。作品全体が、読み手に語りかけてきた感じがした。また、みんなでいっしょになれたらいいと思った。

●圭太が川原で楽しそうにキャンプをしている所が目にかんできた。あかりが圭太たちとキャンプできてよかったなと思った。

●明里の「友達になりたい。」という思いから出てきた発想がすごいと思いました。

『あかりさん、どこへ行くの?』

近藤尚子／著（フレーベル館）

- 病気の大変さがわかった。
- “にんちしょう”のあかりさんがとってもかわいそうだなと思った。へんなあかりさんがとってもおもしろかった。
- メイとタケシがあかりさんに寄りそっていて優しいなと思った。
- みんな、なる可能性のある病気なので、こういう本を通して知る機会になると思います。
- パーキンソン病と認知症におかされているあかりさんだが、家族がそこから変わっていくストーリーがおもしろい。

『フラダン』

古内一絵／著（小峰書店）

- とても有名なゆっくりとしたフラダンスだけでなく男子が映える激しいおどりも、ハワイの文化だと知ってびっくりした。
- フラダンスは女の人のイメージがあって、男の人がやるところが、びっくりした。
- フラダンスでしおりをみつけようとするのがすごいアイデアだと思った。
- 悲しければ悲しんでいい。そういう穢の言葉がとてもよかったです。
- 登場人物が個性的でよかった。
- 「フラダン」という題名でフラダンスをおどると思っていると、水泳部をやめたゆたかをしつこく「フラ愛好会」に入らない?とさそう、しおりのこんきつよさがすごいと思いました。

『わたしがここにいる理由』 片川優子／著（岩崎書店）

- 友達や家族のつきあいが悪くなり、問題になっても、最後には、解決したところがよかったです。
- いろいろな人物から、物語が書かれていて、おもしろかったです。
- かずきとあかりとりこが小学生のころの友情を忘れずに、中学校で、自分のいる場所をさがしているところに感動した。
- 「王様の耳はロバの耳～!!」とさげんだ時は、スッキリしただろうな～と思いました。私も、さげんでみたい。
- 3人とも、中学に入って、1人ではこえられないかべを3人で助け合って成長していくところが良かった。

平成29年2月5日